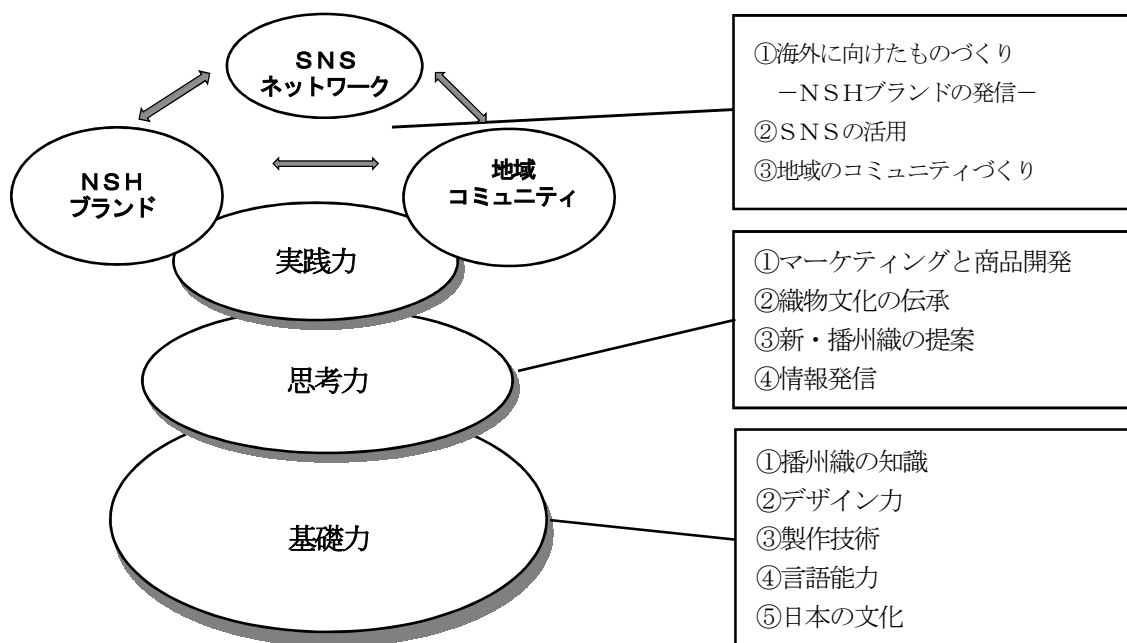


平成27年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題	cool Japan cool Bansyuori —播州織再発見と西脇産ブランド発信—					
2 研究の概要	<p>1 播州織の再発見と最先端技術から「新・播州織」の研究 播州織産地としての、伝統ある織物や昔ながらの職人技を再発見し、世界に誇れる技術や日本の文化、織物の文化を理解し、さらに最先端技術を身につけた将来の播州織スペシャリストを育成する。</p> <p>2 地域産業を活かした新たな「家庭に関する専門学科」の在り方の提案 播州織製品の企画・生産から加工・流通・販売までの一体的な学びを取り入れ、プランニング・デザイン・リサーチ・マーケティング・プロデュースをする力を身につけた地域産業を担う将来のスペシャリストを育成する。</p> <p>3 NSHブランド（西脇高校生活情報科ブランド）の発信 播州織のすばらしさとともに、NSH ブランドとして、地域で学んだ播州織技術と日本の生活文化や技術を兼ね備えたオリジナルブランドを世界に向けて発信する。</p> <p>4 播州織で織りなす町づくり 播州織でつながる町づくりのすばらしさを再認識し、西脇高校から「播州織で織りなす町」を情報発信し、コミュニティづくりを行う。播州織を活用して地域の活性化をより一層進める。</p>					
3 平成27年度実施規模	生活情報科を対象として実施した					
4 研究内容	<p>○研究計画</p> <table border="1" data-bbox="188 1391 1417 2042"> <tr> <td data-bbox="188 1391 336 1951">第1年次</td> <td data-bbox="336 1391 1417 1951"> <p>cool Japan cool Bansyuori として世界に誇れる播州織制作の自信と自覚を持って、より一層レベルアップを目指し取り組む姿勢を養う。</p> <p>1 地場産業播州織の伝統や職人技を再認識するとともに、織や染め糸に関しても現場見学を通して理解を深める。また、最先端技術やコンピュータソフトの使い方を理解し、イメージした織物を組織から提案できる知識と技術を身につける。</p> <p>2 商品開発では、実際にアンテナショップや百貨店で販売を行い、消費者のニーズに応じた作品づくりを検討する。</p> <p>3 播州織を活用した町づくりをテーマにさまざまな提案を行い、現状と課題を把握する。</p> <p>4 日本の伝統文化について学習し、それらを取り入れたテキスタイルデザインを創造する。また、高校生らしいデザインや発想を表現し、地域の産元をはじめアパレル業界に提案する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 1951 336 2042">第2年次</td> <td data-bbox="336 1951 1417 2042">地場産業に対する知識や職人技を活かし、新しい発想でのテキスタイルデザインの提案とものづくりに挑戦し、ブランド化を目指す。</td> </tr> </table>		第1年次	<p>cool Japan cool Bansyuori として世界に誇れる播州織制作の自信と自覚を持って、より一層レベルアップを目指し取り組む姿勢を養う。</p> <p>1 地場産業播州織の伝統や職人技を再認識するとともに、織や染め糸に関しても現場見学を通して理解を深める。また、最先端技術やコンピュータソフトの使い方を理解し、イメージした織物を組織から提案できる知識と技術を身につける。</p> <p>2 商品開発では、実際にアンテナショップや百貨店で販売を行い、消費者のニーズに応じた作品づくりを検討する。</p> <p>3 播州織を活用した町づくりをテーマにさまざまな提案を行い、現状と課題を把握する。</p> <p>4 日本の伝統文化について学習し、それらを取り入れたテキスタイルデザインを創造する。また、高校生らしいデザインや発想を表現し、地域の産元をはじめアパレル業界に提案する。</p>	第2年次	地場産業に対する知識や職人技を活かし、新しい発想でのテキスタイルデザインの提案とものづくりに挑戦し、ブランド化を目指す。
第1年次	<p>cool Japan cool Bansyuori として世界に誇れる播州織制作の自信と自覚を持って、より一層レベルアップを目指し取り組む姿勢を養う。</p> <p>1 地場産業播州織の伝統や職人技を再認識するとともに、織や染め糸に関しても現場見学を通して理解を深める。また、最先端技術やコンピュータソフトの使い方を理解し、イメージした織物を組織から提案できる知識と技術を身につける。</p> <p>2 商品開発では、実際にアンテナショップや百貨店で販売を行い、消費者のニーズに応じた作品づくりを検討する。</p> <p>3 播州織を活用した町づくりをテーマにさまざまな提案を行い、現状と課題を把握する。</p> <p>4 日本の伝統文化について学習し、それらを取り入れたテキスタイルデザインを創造する。また、高校生らしいデザインや発想を表現し、地域の産元をはじめアパレル業界に提案する。</p>					
第2年次	地場産業に対する知識や職人技を活かし、新しい発想でのテキスタイルデザインの提案とものづくりに挑戦し、ブランド化を目指す。					

	<ol style="list-style-type: none"> より詳しく職人技や職業観などを理解し、織の表現を工夫し、コンピュータを使って、新しい発想の表現を目指す。 マーケティング分析を行い、オリジナル企画の商品の提案とそのブランド化を目指す。 企画の改善を図りながら継続して行い、いろいろな角度から町づくりを考える。 ファッションショーや地域でのイベントで発表し、より洗練された演出を目指す。
第3年次	<p>cool Japan cool Bansyuori で世界に誇れる情報を発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の文化とともに織物の町西脇の文化と技術を学び、先染め織物と織りの知識を身につけ、製品化につながる「播州織」の提案を目指す。 洗練されたものづくり、商品の提案を目指す。 高校生が提案する企画によってユニークな町づくり、町の活性化を目指す。 NSHブランドといえる商品の提案を目指す。 学校設定科目の指導内容を確立させる。



○教育課程上の特例

該当なし

○平成27年度の教育課程の内容（教育課程表は別添参照）

<1年>

「日本の文化と地域産業」（学校設定科目）2単位

- ・「播州織」についての知識や工場見学を通して、地場産業の理解を深める。
- ・綿の栽培から糸を紡いで、草木染め、織物へと実際に体験を通して、日本の文化と織物について理解する。
- ・茶道など日本の文化を知る。

「ファッション造形基礎」2単位

- ・ミシン縫いの基礎から、実習着の製作を行う。
- ・アウターパンツ製作を通して、ズボンのパターンと縫製方法を理解する。
- ・裏付きスカートの製作を通して、パターンの展開や裏地の扱い方を理解する。

「生活産業情報」 2単位

- ・パソコンの基本操作を習得する。
- ・ワープロ、表計算、プレゼンテーションの知識・技術を習得する。

<2年>

「ファッション造形」 4単位

- ・着物の構成を理解し、浴衣を製作する。
- ・シャツブラウスのパターンの展開を理解し、縫製技術を習得する。
- ・スモッキングの技法を習得し、応用した作品製作を行う。

「グラフィックデザイン」 2単位

- ・色彩についての基礎的な知識や配色を理解する。
- ・先染め織物ソフト (TEX-SIM) を活用し、テキスタイルデザインを習得する。
- ・服飾史からファッションを学び応用する力を身につける。

「フードデザイン」 (3単位)

- ・食品の栄養素について理解する。
- ・世界の食文化と日本の食文化を知る。
- ・調理技術を習得する。

「家庭情報応用」 (学校設定科目) 2単位

- ・コンピュータの知識とOfficeの活用技術を習得する。
- ・ネットワークについて知識とホームページ等の情報発信技術を身につける。

<3年>

「課題研究」 5単位

(服飾)

- ・播州織を生かしたデザイン力と、それを製作する技術力を身につける。
- ・ファッションショーを企画し、テーマに合った作品製作を通して実践力を養う。

(食物)

- ・地域の特産物を使った商品開発およびレシピを考案する。
- ・一日レストラン「梅吉亭」でのシェフ体験を通して、実践力を養う。

(福祉)

- ・社会福祉協議会と連携し、要約筆記や点訳ボランティアなど経験する。
- ・地域活動を通して、主体的に取り組む姿勢とコミュニティ能力を養う。

「生活産業とマーケティング」 (学校設定科目) 2単位

- ・マーケティングについて理解する。
- ・地域活性化プロジェクトを企画し、実践力を養う。

○具体的な研究事項・活動内容

1年目は「基礎力」として、①播州織の知識 ②デザイン力 ③製作技術 ④言語能力 ⑤日本の文化 これら5つの力を身につけさせるための取組を進めた。

2年目は「基礎力」の徹底を図りながら、以下の内容で「思考力」の充実に向けて取り組んだ。

(1)マーケティングと商品開発

播州織を活用したものづくりや実践活動に、マーケティングの考え方を取り入れ、社会の変化、現状を総合的に思考・判断し、目的や目標を明確に取り組んでいく力を身につける。また、リサーチ分析や相互評価から企画を考えて、作品製作していく過程において思考力を養う。

<活動内容>

①マーケティングの学習とプロジェクト実践

学校設定科目「生活産業とマーケティング」の中で、広義のマーケティングについて学習し、「デザイン思考」を用いて、学食プロジェクト～ITA食堂 (I:行きたい T:食べたい A:集まりたい) ～、西脇市駅プロジェクト～西脇市駅を日本一にしよう!～など5つのプロジェクトに取り組ん

だ。単にものを製作したり提案するだけでなく、それぞれの思いを推測したり、背景や現状を分析した上で、目標を明確にして実践していくことの大切さを学んだ。

②播州織商品の提案

学校設定科目「キルト」及び学校家庭クラブ活動において、商品化を意識して播州織の魅力を生かした小物製作に取り組んだ。ターゲット、値段、POP、展示方法など製作から販売までを考えた創作活動に取り組んだ。

(2)織物文化の伝承

日本の文化や播州織の学習から、具体的に自分の考えを表現し理解を深め、地場産業に対する誇りと日本の技術や感性のすばらしさを考えさせる。

<活動内容>

①綿から織物へ

学校設定科目「日本の文化と地域産業」において、播州織を通じた日本文化の理解を図るため、綿を栽培し、綿から糸を紡ぎ、草木染め、手織りを行った。織物を原点から理解し、手仕事を通して創造性を育むことができた。

②播州織産地の理解

播州織の基礎的な知識、さらに産地としての文化や生産実態に触れる工場見学やインターンシップを実施した。播州織の基礎的な知識、さらに産地としての文化や生産実態に触れ、播州織に対する愛着、丁寧な仕事内容や職人のこだわりなど、播州織に対する思いやものづくりのすばらしさを理解することができた。

(3)新・播州織の提案

研修に参加して、学んだことや感じたことをレポートにまとめ、自分の考えや感性を表現することにより理解を深める。さらに、総合的に製品化までを考えたオリジナルの播州織を提案し、ブランド企画を行う。

<活動内容>

①京都研修

京都の自然や文化から感じた「美しいもの」をレポートし、日本人の感性を言葉やイメージで表現することで、日本の美しさとすばらしさを理解することができた。

②東京研修

ファッション業界やものづくりの世界を理解し、日本の最先端技術やアパレル産業を知ることにより、地場産業「播州織」の魅力を見直し、オリジナルのテキスタイルデザインを世界に発信していく必要を感じた。また、日本人のもつ繊細なクリエイション力と技術を身につけていくことの大切さを学んだ。

③パリ研修

パリでの世界最大の素材見本市「プルミエール・ヴィジョン」の見学を行い、Made in Japan や cool Japan について、グローバルな視点から播州織をとらえることができた。日本の文化や美意識を見直し、日本人としてのアイデンティティと感性を意識した作品づくりの必要性を感じた。

④学校設定科目「グラフィックデザイン」における播州織の提案

学校設定科目「グラフィックデザイン」において、Photoshop やスタイルスタジオなどの画像処理ソフトを使ったイメージを表現する技術を習得した。また、先染め織物ソフト「TEX-SIM」を使い、織り柄や配色、高校生の感性を活かしたオリジナル播州織や商品の提案を行うことができた。

⑤オリジナルデザインの「播州織」の提案

本年度は4つのテーマに分かれ、イメージに合った服をデザインし、アパレル商品まで考えたオリジナル播州織の提案を行った。

(4)情報発信

生活情報科の取組を情報発信し、卒業生やさまざまな立場の方からの指導や評価を参考に、生徒の主体的な実践活動に生かす。

<活動内容>

①卒業生との交流および情報交換会

5月に43名の卒業生と情報交換会を行った。産地のテキスタイルデザインやアパレル業界、その他さまざまな職業で活躍している卒業生から、幅広いアドバイスをいただいた。今後、生活情報科と

卒業生とのネットワークと、卒業生同士のネットワークを構築し、専門性を高めていきたい。

【生活情報科生徒へ】

○今やりたいことをたくさん、とことんやれば、今はわからなくても将来それが急につながりだす時がきます。

○生情ブランドの提案、商品化などもして欲しいなと思います。(高校生らしいHappyがたくさんつまったものなど！)

○「人生今から！何でもできる！やりたいことやろう！可能性が詰まっています！」若いうちがステキですよ！興味のある分野だけに視点を狭くせず、いろんなものを見て成長してください。

②西脇高校生活情報科のホームページ制作

播州織のすばらしさや高校生のオリジナルデザインを提案し、SNSを活用した海外への情報発信を考える。外部講師授業を行い、内容や表現に拘り、設定により見てもらえるホームページ制作についての知識と技術を学び取り組むことができた。今後、継続して実践できるように、指導や組織の工夫を考えていきたい。

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価

(1)マーケティングと商品開発

実践活動や作品製作を行うために、『デザイン思考』に則って、到達目標であるビジョンを明確にし、共感・問題提起・創造・試作・検証を考え、背景や現状を分析しながらストーリーにそって実践していくことの重要性を理解することができた。プロジェクトチームとして企画や作品づくりを行う中で、コミュニケーションの大切さや人の意見に共感し、柔軟な考えで取り組む姿勢や積極的な実践力を身につけることができた。

商品開発では、播州織を生かしたセンスあるものづくりを話し合い、相互評価をしながら制作した。また、販売や展示に関してのアンケートを実施することで、良い点や改善点を明確にすることができた。

(2)織物文化の伝承

工場見学では、工程ごとに分かれて実施し、播州織の基礎的な知識からさらに産地としての文化や生産者のものづくりへの思いに触れ、播州織に対する愛着とすばらしさを感じる事ができた。

綿を栽培し糸紡ぎや染めを体験し、織物の基本から日本文化や播州織の技術の発達を理解することができた。

(3)新・播州織の提案

京都・東京・パリと実際に現地で感じた知識やセンス、感性を具体的に表現し発表することを通して、ファッションやものづくりについて理解を深めることができた。

また、4つのグループに分かれ、共通理解を図りながらテーマにあったオリジナル播州織を提案し、播州織の魅力を海外に発信することを目標に主体的に取り組むことができた。

(4)情報発信

多くの方との情報交換を通して、地場産業「播州織」のすばらしさや地域の支えに感謝し、地元への愛着が深まった。また、播州織の魅力と本校の取組を発信していく必要性を感じ、活動の記録をまとめ、ホームページ制作に取り組むことができた。

○実施上の問題点と今後の課題

<実施上の問題点>

- ・研修時間の確保

活動が多方面で専門性が高く、新しい取組を行うためにも研修が必要であるが、共通した研修時間の確保が困難である。

<今後の課題>

- ・教員の研修と指導の充実

教員の専門分野の研修やマーケティングなど新しい観点からの研究を推進していくための研修を計画的に実施する。

- ・SNSを使った情報発信

SNSを活用した情報発信を行うために、情報ネットワークに関しての研修を行う。

